

ぶんけい

教育ほっとにゅーす
かわら版こみち
教育の小径

3月号

2012
MARCH
No.41

今月のこぼ

蛍雪

蛍の光や雪の明かりで書を読んだという
故事によるもの。苦勞して勉学に励むこと
で、「蛍の光、窓の雪」とも言います。苦勞
して学問を修めた成果のことを「蛍雪の
功」と言います。

今月の記念日

みつばちの日(3月8日)

「みつ(3)」と「はち(8)」の語呂合わせ
です。全日本蜂蜜協同組合と日本養蜂
はちみつ協会が制定しました。私たちが食
べている蜂蜜は、蜜蜂が自分たちのために
集めたものです。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

今月の
テーマ

1年の締めくくり —子どもたちにどう話すか—

- 3月は1年を締めくくり、次年度につなげる重要な時期です。4月に作成した学級経営案に照らして、1年間の成果と課題を自己点検しましょう。
- 振り返った結果は、様々な場や機会をとらえて子どもたちや保護者に伝えます。その際、事実にもとづいて具体的に話し、自信とやる気をもたせるようにします。

まずは教師が振り返る

3月は、1年を締めくくる大切な時期です。締めくくるとは、1年間の学校生活を振り返り、子どもたちの成長・発達の状況を確認することです。子どもたちにもこれまでの生活を振り返らせ、これからの生活に意欲をもたせるようにします。これまで努力してきたことに対して、喜びを感じとらせ自信をもたせるとともに、次の学年や中学校への意欲と期待と目標をもたせることが大切です。

まずは教師自身がこの1年を振り返ります。年度のはじめに作成した学級経営案にもとづいて、学習指導、生徒指導(生活指導)、児童理解、家庭との連携などの観点から、学級全体に見られる成果と課題を自己点検、自己評価します。明確になった課題は、次年度の指導の方針や重点事項を定めるときの参考にします。

また、子ども一人一人に即して、1年間の学校生活を振り返ることも大切です。どの場面で、どのような進歩の状況や努力のあとが見られるか。さらに努力すべき課題は何かをできるだけ具

体的に把握します。子ども自身に振り返らせ、子どもから情報を得る方法もあります。これは子どもに自己評価させる方法です。結果は、個人カードなどに個別に記録しておくともいでしょう。

年度末に1年を振り返り、それらを子どもたちに話すとき、まずは教師自身が必要な情報を収集し整理することが大切です。

具体的な事実で話そう

進歩の状況にしても、努力すべき課題についても、それらを子どもたちに伝えるとき、何より大切なことは例をあげ、具体的な事実にもとづいて話すことです。「よく頑張ったね」「さらに努力してください」だけでは、子どもたちに自信をつけることも、やる気を育てることもできません。どの教科のどこがどうよくなったのか。また、どこをどのように頑張るとさらによくなるのかを、単元や題材の内容や学習活動に即して具体的に説明します。

その際、学級全体に対して話す場合と、個々の子どもに話す場合では、話す内容が変わることがあります。

進歩の状況を話すとき、どうしてできるようになったのか、分かるようになったのかを説明します。その背景には、個人の努力があったことは言うまでもありませんが、友だちからのよい影響があったことについても触れるとよいでしょう。

様々な場や方法で伝える

1年を振り返った内容は、学校生活の様々な場や機会をとらえて子どもたちに話します。毎日の朝の会や、学級活動の時間を活用することもできます。低学年では、生活科の学習として取り組むことができます。

1年の締めくくりは、保護者に対して、保護者会や個人面談の場で話します。学級通信を活用することもできます。子どもたちが成長したことには、保護者の協力があつたことにも触れましょう。保護者の方にも子どもを育ててきたことに成就感を味わわせ、自信をもっていただくようにします。

年度末には、通知表を作成します。通知表をとおして1年間の成長の様子を伝えます。具体的に記述し、子どもに成長の証を実感させるとともに、次の年度への意欲と目標をもたせることを何より大切にしましょう。



教えて北先生

集団にとけ込めない子ども

Q. 休み時間には、友だちと遊ぶように勧めているのですが、集団に入っていけない子どもがいます。グループ学習では、見ているだけで積極的に参加しようとしません。このような集団にとけ込めない子ども、友だちとかかわれない子どもには、どのように指導するとよいのでしょうか。

A. 近年、友だちとかかわることができない子どもが増えてきているといいます。背景には、兄弟姉妹が少ないこと、異学年の子どもたちとの交流や外で遊ぶことが少ないことなどがあげられています。

集団にとけ込めない子どもには、授業の場でグループで作業する活動を設け、ともに学習することの楽しさと大切さを味わわせます。その際、その子どものよさや得意分野を生かし、役割をもたせます。やり遂げたときには称讚します。週に1回、「みんなで遊ぶ日」を設ける方法もあります。

グループ学習や係活動など集団活動をとおして、自分の行ったことが友だちから認められたという経験や、自分は友だちの役に立っているという自己有用感をもたせるようにします。

友だちとかかわる場や機会を意図的につくり、結果を性急に求めず、長い目で見守っていきしょう。



教育の動向

防災教育に関する「中間まとめ」

文部科学省は、昨年7月に東日本大震災を受けて防災教育や防災管理などの専門家による会議を立ち上げ、「中間まとめ」を公表しています。これには、岩手県釜石市での「津波てんでんこ」などの取り組みに学び、今後の考え方や方向性が示されています。

自然災害の危険から自らの命を守り抜くために、自らの危険を予測し、回避する能力や、支援者の視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める、防災教育を推進することを求めています。

また、防災管理・組織活動を充実させるため、教職員への研修の実施、各学校における地震・津波に係る対応マニュアルの整備、関係機関等との連携体制の整備、地域や家庭と連携した防災訓練の実施などを求めています。

つくば市にある独立行政法人教員研修センターでは、「防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する指導者養成」研修を全国2か所で実施しています。基礎的な知識の習得や、自然災害発生時の対処マニュアルの作成など実践的な研修を行っています。

今後、各学校に防災教育に関する担当教員を設置することも視野に入れられています。



コラム 北先生の授業力向上術

学ぶは「まねる」から

先輩の先生に授業を見せていただき指導を受けることによって、授業とはどのように行うものかということを知りました。「見て学ぶ」です。そこでは、必ず自分の授業にはなかった優れた指導のアイデアがありました。例えば、指名の仕方、板書の構成、資料や教材を提示するタイミングなどに関することです。子どもの発言の生かし方には、はっとすることがたびたびでした。それまで図書で知った知識では得られないものだったからです。

授業を参観して得た指導のアイデアは、さっそく自分の授業に取り入れました。ところが、うまくいくこともありませんでした。同じようにいかないこともありました。そのときには、どうして同じように指導しても同じ結果が出

ないのかを考えます。まねて同じようにやってみることは、授業力を向上させるひとつの方法です。

「学ぶはまねるから」と言います。これは、能の世界で言われてきた「守破離」の「守る」に当たります。まねながら同じようにやりながら、自分なりの工夫を少しずつ取り入れ、やがて自分流の授業が少しずつ確立していくのではないかと思います。

もちろん授業力を向上させる営みにゴールはありません。常に学び続けるという謙虚な気持ちと向上心が必要であるなことは言うまでもありません。いまま私は発展途上の身です。



INFORMATION

すぐに使える

小学校 新指導要録

記入文例集

通知表の作成にも使えます!

◎監修 梶田 敏一
◎企画・編集 ぶんけい教育研究所
◎定価 1,200円(税別)
◎発行 株式会社文溪堂

B5判 128ページ



「教育の小径」の全てのバックナンバーをインターネットでお読みいただけます!

ダウンロードして印刷も可能です。
お知り合いの先生もぜひお勧めください。
<http://www.bunkei.co.jp/2012/monthly.html>
または「ぶんけい 教育の小径」で検索。



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2012年3月1日